

12月2日 逍遙 

今年も、人様の暦が師走を知らせ、体調管理が第一の 8 歳の雌猫のワタシにとっては、秋の頃のような、城山の麓を一匹であれこれ思いながらの散歩では、冬の今となれば寒さが余計身に染みるので、そろそろ熱気のある賑やかな街中に変えてみたいと思います。ワタシの行動半径からだと、山形屋辺りまででしょうか？

ワタシのお店にほど近い西郷銅像横の歩道橋には、猫のワタシには少々険しい階段がありますが、健康増進を兼ねて昇り切り国道の上を渡ると、そこには小松帯刀の像が建つ宝山ホール。そのまま人様にくっついて横断歩道を 2 回渡り、中央公園沿い、そして、西南戦争直後の頃にここに建てられたという西本願寺鹿児島別院沿いに続く歩道をトコトコ行くと…程なく、背の低いワタシの視線の先には、近くの百貨店等の社員や買い物客の、右に左に忙しく行き交う、色とりどりの靴先が、幾つも重なって見えます。

この時季、人間の子供達が、大人に連れられて何となく浮き浮きした表情になるのは、きっとワタシのように、このアングルで見ているからなのかも…

次回「継承と変化が紡いできたもの、のこころ」

すず 人間の子供達の
気持ち分かる、
のこころ

